

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

英語を用いて外国人講師や仲間と協働して自然体験活動を行うことで、表現力やコミュニケーション能力、自ら考えて行動する力、チャレンジ精神を身につけるとともに、自国や他国の文化について理解を深める。また、外国人講師との交流を通して、外国文化に親しみを持つとともに、国際交流を楽しみながらコミュニケーションを図る。

2. 事業の概要

（1）期日

令和5年9月19日（火）～9月20日（水）1泊2日

（2）参加者

① 参加対象・人数

吉備中央町立吉備高原小学校6年生・9人

② 参加者

吉備中央町立吉備高原小学校6年生・9人

（3）講師等

アクラムジョノワ ディルヨラホン 氏（岡山国際交流センター ボランティア）
ホー ジンス 氏（岡山国際交流センター ボランティア）

（4）企画・運営のポイント

- ① 英語の活用については、「完璧でなくてもよい。」「少しでも英語でコミュニケーションを取れることを楽しむ。」ということ事前に伝え、英語に親しむことを第一の目的に設定した。
- ② レクリエーションでは、外国人講師と打ち合わせをし、母国の文化紹介や英語を使ったゲームで外国文化への興味を高めた。
- ③ 二人の講師がキャンプに慣れており、臨機応変に対応できるという実態を考慮して、子どもたちが興味を持つことができる様々な遊びを用意した。
- ④ 活動の内容を「関わり合えるもの」「知的な好奇心が満たされるもの」「協力が必要不可欠なもの」など、意図を持たせて組み合わせた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

9月19日(火)		9月20日(水)	
9:30	開会式・オリエンテーション (Opening&Orientation)	6:15	起床(Wake up)
10:00	アイスブレイク(Ice Breaking)	6:45	掃除(Clean up)
12:00	昼食(Lunch)	7:15	朝のつどい(Morning gathering)
13:00	レクリエーション(Recreation)	7:30	朝食(Breakfast)
14:00	館内オリエンテーリング(Orienteering)	9:00	点検(Room inspection)
16:00	寝具説明・休憩(Bed making・Rest)	9:30	野外炊事(Outdoor cooking)
17:15	夕べのつどい (Evening gathering)	14:00	閉会式(Closing)
17:30	夕食(Dinner)		
18:15	キャンドルのつどい (Candle night)		
19:15	入浴(Bath time)		
21:30	就寝(Bed time)		

(2) 活動の状況



【オリエンテーション】



【アイスブレイク】



【レクリエーション】



【館内オリエンテーリング】



【キャンドルのつどい①】



【キャンドルのつどい②】



【野外炊事①】



【野外炊事②】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：82% やや満足：18%

(2) 参加者の声

①児童

- ア. 日本と他の国の文化の違いを知って驚いた。
- イ. 講師の先生と英語でたくさん交流することができた。
- ウ. 外国のことについて興味を持ったし、もっと知りたいと思った。

②教員

- ア. 講師の先生がとても親しみやすく、英語に楽しく触れることができ、充実した2日間でした。
- イ. 体を動かしたり、ゲームや料理をしたりして、いろいろな子が活躍できるようにプログラムが工夫されていた。

(3) 成果

- ① アイスブレイクや館内オリエンテーリングで、活動の中で何度も繰り返し英語を使ったことで自然と身に付き、英語で伝えることができる満足感を味わうことができた。
- ② 上の「企画・運営のポイント」で記したように、外国の遊びなどを複数することができた。その中で英語に触れ、外国の遊びにも興味を持つことができたので、非常に有意義な時間になった。
- ③ 講師から海外の文化や現地のアクティビティを楽しく紹介してもらったことで、外国文化に親しむことができた。子供たちから多くの質問があり、意欲的に活動に参加する姿が見られた。

(4) 今後の課題

- ① 今回は講師の技量や人柄のおかげで成功したことが多々あったが、任せきりになったり連携をうまく取れなかったりした面もあった。うまくいったことに甘んじることなく、事業のねらいを共有し、より子どもたちが英語や外国の文化に親しむことができる活動を共に考える必要がある。
- ② 本事業では英語の技術向上ではなく、英語や外国の文化に親しむことをねらいとしている。そのため、職員が英語を楽しんだり完璧でなくても一生懸命に話そうとしたりする姿を見せなければならなかった。そのためにも、他国の文化についての最低限の知識を学んだり英語を使うことができるように事前に準備をしたりする必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験指導者（NEAL リーダー）を養成することにより、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成する。

2. 事業の概要

（1）期日

前期：令和5年5月20日（土）～5月21日（日）1泊2日

後期：令和5年6月3日（土）～6月4日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

自然体験活動の指導者になりたい、あるいは興味・関心のある方 20人程度

② 参加人数

前期4人（大学生2人、社会人2人）

後期17人（大学生13人、社会人4人）

（3）講師等

前期：1日目

講習①「青少年教育における体験活動」

講師：青山 鉄兵 氏（文教大学 人間科学部 人間科学科 准教授）

講習②「自然体験活動の安全管理」

講師：井上 桂 氏（下関市深坂自然の森 森の家下関 所長）

前期：2日目

講習③「自然体験活動の技術」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

後期：1日目

講習④「自然体験活動の特質」

講師：西村 典芳 氏（流通科学大学 人間社会学部 観光学科 教授）

講習⑤「対象者理解」

講師：石川 順雄 氏（尾道市立栗原小学校 校長）

後期：2日目

講習⑥「自然体験活動の指導」

講師：蓬田 高正 氏（天理大学 体育学部 体育学科 准教授）

講習⑦「自然体験活動の技術 その2」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 前期日程をボランティア養成研修と合同で実施することで、両方の資格を取れるようにした。
- ② 6つの大学で直接広報を行い、野外活動での安全管理や指導法について学びつつ、永年資格が取れることを広く周知した。
- ③ 修了試験後のガイダンスで、NEALリーダー資格取得後に関する情報提供を行った。〔当所事業の案内や上位資格（インストラクター）の取得に向けての講習会情報や履修方法等〕

3. 活動の内容等

(1) 日程

① 前期

5月20日(土)		5月21日(日)	
9:30	受付	6:15	起床・洗面・清掃
10:00	開会式・ガイダンス	7:15	朝のつどい
10:30	講習① 「青少年教育における体験活動」	7:30	朝食
12:00	昼食	9:00	講習③「自然体験活動の技術」 (野外炊事)
13:00	アイスブレイク	13:00	閉会式
14:00	講習②「自然体験活動の安全管理」	13:15	解散
17:15	夕べのつどい		
17:30	夕食		
18:30	入浴		
20:30	情報交換会		
22:00	就寝		

② 後期

6月3日(土)		6月4日(日)	
13:00	受付	6:15	起床・洗面・清掃
13:30	ガイダンス	7:15	朝のつどい
14:00	講習④「自然体験活動の特質」	7:30	朝食
17:15	夕べのつどい	9:00	講習⑥「自然体験活動の指導」
17:30	夕食	10:30	講習③「自然体験活動の技術」
18:30	講習⑤「対象者理解」	12:30	昼食
20:00	入浴	13:30	まとめ
21:00	情報交換会	14:00	修了試験
22:00	就寝	14:30	閉会式・ガイダンス
		15:00	解散

(2) 活動の状況

① 前期



【青少年教育における体験活動】



【自然体験活動の安全管理】



【自然体験活動の技術】



【自然体験活動の技術】

② 後期



【自然体験活動の特質】



【対象者理解】



【自然体験活動の指導】



【自然体験活動の技術】

4. 成果・課題

(1) 満足度

前期 満足：100%

後期 満足：94% やや満足：6%

(2) 参加者の声

- ① 活動の意義を理解するために、講義を聞くだけでなく、実際に体験することの重要性を感じられた。
- ② ワークを通して、自分に足りないものや目指すところが明確になった。
- ③ まずは自分の言葉で書いて、それを共有する中で、自分の考えを深めたり、自分にはない考え方を吸収出来たりするのがよかった。
- ④ 楽しい活動の中にも、危険なこと、気を付けなければならないこともあることを学んだ。
- ⑤ NEAL リーダーの役割といっても人それぞれ考え方が違う部分があることを学んだ。基本のあるべき姿をしっかり押さえたうえで、自分の理想の姿になれるよう頑張りたい。

(3) 成果

- ① 前期日程をボランティア養成研修と合同で実施し、ボランティア養成研修のみの講義を1日目の夜以降に実施したことで、NEAL リーダー受講者のうちボランティアに興味がある人はボランティア養成研修の講義も参加してもらい、法人ボランティア登録をすることができた。
- ② 自然体験活動指導者として必要な知識や技能について、大学生から実際に自然体験活動に関わっている方など、さまざまな立場の人たちと意見交換をすることができ、体験を通して自然体験活動に関する理解を深められた。
- ③ 全参加者がNEAL リーダーの修了試験に合格することができた。

(4) 今後の課題

昨年、当事業の受講者でボランティアに興味を持つ人が多かったため、今年は当日でもボランティア養成研修を受講できるよう活動日程を変更したことにより、指導者として実践する場につなげることができた。しかし、その分当日の対応については煩雑となったため、来年度に向けてレストラン職員も含め検討する必要がある。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
チームビルディング研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年教育活動や学校での学級経営などで仲間づくりに興味のある方が、講義・演習を通して活動の目的を達成するための基本理念を理解し、様々な仲間づくりゲームを体験することで、日常で活かせる実践力を身に付ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年10月21日（土）日帰り

(2) 参加者

① 募集対象・人数

青少年教育指導者・教職員・学生・教育委員会関係者・その他仲間づくりに興味のある方

24人

② 参加者

19人

(3) 講師

宇江 賢 氏（吉備中央町立津賀小学校校長）

(4) 企画・運営のポイント

① 教育委員会へ直接広報を行い、教育委員会から各学校へ広報を行うことで学校関係者だけでなく、教育委員会関係者への広報も行った。また、中四国近畿の青少年教育施設への広報も行った。

② 新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染拡大防止のため、手指消毒や部屋の換気による環境面でも対策を講じることで、参加者が安心して研修を受けられる体制を整えた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

10月21日（土）	
9:30	受付
10:00	開会式
10:30	KAP（吉備アドベンチャープログラム）の体験
12:00	昼食
13:00	KAP（吉備アドベンチャープログラム）の体験 所内にあるPA施設（ローエレメント）等の体験
15:00	閉会式 施設見学（希望者のみ）

(2) 活動状況



【KAPの体験①】



【KAPの体験②】



【所内にあるPA施設の体験①】



【所内にあるPA施設の体験②】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：95% やや満足：5%

(2) 参加者の声

- ① 自分のクラスや部活動でも使えるような体験ができて良かった。初対面の人とこんなに短時間で仲良くなれると思っていなくて驚いた。
- ② 気づきを促す指導者の発問や出された意見をどう集約させ、どうチームづくりを生かせるのか自身が体験し学べた。

(3) 成果

- ① 教育委員会関係者への広報や中四国近畿の青少年教育施設への広報など、広報範囲を広めたことで参加人数の確保に繋がった。
- ② 日帰りで実施することで、参加者への負担を減らし、参加に対する敷居を低くすることができた。
- ③ 他の青少年教育施設からの参加者のために施設見学の時間を設けたことで、吉備の施設設備をより知っていただく機会となった。

(4) 今後の課題

参加者のニーズに合わせた研修形態（宿泊を伴うなど）にしていくことが必要となる。

担当：企画指導専門職付 竹井 楓夏

**令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修**

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年5月20日（土）～5月21日（日）1泊2日

(2) 参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 50人

②参加人数

26人（高校生1人、大学生22人、社会人3人）

(3) 講師等

講義1「青少年教育における体験活動」

講師：青山 鉄兵 氏（文教大学 人間科学部人間科学科 准教授）

講義・演習1「自然体験活動の安全管理」

講師：井上 桂 氏（下関市深坂自然の森 森の家下関 所長）

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習2「ボランティア活動の技術」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

講義2「ボランティア活動の意義」

講師：室 貴由輝 氏（岡山県教育庁 高校教育課高校魅力化推進室 室長
一般社団法人 やかげ小中高こども連合 共同代表）

講義3「青少年教育施設の現状と運営」

講師：妹尾 剛（国立吉備青少年自然の家 所長）

説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：藤本 昌克（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 開催については、例年広報から申込締切の期間が短かったため、1週間遅く開催時期を設定した。
- ② 広報については、7大学と2高校については訪問して直接広報を行った。
- ③ 各講義では、青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々に依頼して実践に基づいた講話を聴くとともに、職員からも具体的な説明を行った。また、オンラインを使用することで遠方の講師にも依頼することができた。
- ④ 法人ボランティア登録の増加のため、同時開催の自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の参加者も法人ボランティア登録の要件を満たせるカリキュラムに設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月20日（土）		5月21日（日）	
9:30	受付	6:15	起床・洗面・清掃
10:00	開講式	7:15	朝のつどい
10:30	講義1 「青少年教育における体験活動」	7:30	朝食
12:00	昼食	9:00	講義・演習2 「ボランティア活動の技術」
13:00	アイスブレイク	13:00	講義2 「ボランティア活動の意義」
14:00	講義・演習1 「自然体験活動の安全管理」	14:45	講義3 「青少年教育施設の現状と運営」
17:15	夕べのつどい	15:45	説明2 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
17:30	夕食	16:45	閉講式
18:30	説明1 「青少年教育施設におけるボランティア活動」		
19:30	入浴・休憩		
20:30	情報交換会		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【講義 1 「青少年教育における体験活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習 1 「自然体験活動の安全管理」】



【説明 1 「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義・演習 2 「ボランティア活動の技術」】



【講義 2 「ボランティア活動の意義」】



【講義 3 「青少年教育施設の現状と運営」】



【説明 2 「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：：69% やや満足：31%

(2) 参加者の声

- ① ボランティアや青少年教育に関する知識を学び、それぞれに対して新たな考え方、見方を得ることができました。青少年教育、施設、ボランティアが全て身近なものに感じられた良い時間だった。
- ② 指導者として気をつけるべきこと、目をつける点、多くのことを学ぶことができた。
- ③ 「体験で学べ」という言葉をよく聞くが、何をやるのではなく、何を目的にするのかということが大切だと分かった。
- ④ 講義にもっと参加できる形だとよかった。

(3) 成果

- ① 広報を聞いて興味をもった方も多く、直接広報の成果が見られた。
- ② 自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の参加者も法人ボランティア登録の要件を満たせるカリキュラムに設定したことにより、当日法人ボランティア登録を決める参加者も見られたので効果があった。
- ③ 参加者全員が法人ボランティア登録をすることができた。

(4) 今後の課題

- ① 吉備ボランティア養成研修と自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の区別が分かりにくく、本人の意図していない方への申し込みが多かったため、開催要項や申込フォームに分かりやすく記載する。
- ② 開催時期をずらした結果、高校のテスト週間と重なり、高校生の参加が見込めなかったため、今一度開催時期を検討する。
- ③ 受動的な内容の講義が多かったため、アクティブラーニングを取り入れるなど参加者が主体的に講義に参加できる形になるように講師の方と打ち合わせをする。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

- ① ボランティア・コーディネーター（以下ボラコー）がその企画立案から指導・助言に携わるとともに、法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための一助となることを目的とする。
- ② 仲間と協力して困難な課題をやり遂げたり、科学の不思議を体験したりすることにより、好奇心や創造性を高めることを目指す。また、科学の面白さに気づき、日常生活や学校生活で役立てようとする意欲を高めることを目指す。

2. 事業の概要

（1）事業名

「目指せ！実験マスター 科学の力でピザづくり in 吉備」

（2）期日

令和6年1月13日（土）～1月14日（日）1泊2日

（3）参加者

① 募集対象・人数

県内の小学校4・5・6年生 18人

② 参加人数

企画ボランティア13人 小学校4・5・6年生15人

（4）企画・運営のポイント

- ① ボラコーは、自主企画事業の趣旨や企画事業の目的に沿った事業運営ができるように、法人ボランティアとの電話やメール、会議など相談の機会を細かく取るようにした。
- ② 法人ボランティアが利用団体として手続きをする経験を積むことができるように、打合せや購入物品の申請などの書類提出や手続きについて指導した。
- ③ 法人ボランティアが計画した活動を実際に体験し、感じたことや改善点を修正できるように、事業当日までに2回の事前研修の日程を確保した。また、事業当日も前泊をして余裕を持って準備できるようにするなど、法人ボランティアが自信をもって事業を運営できるように支援した。
- ④ 参加者に安心・安全に活動してもらえるように、安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	1月13日(土)		1月14日(日)
10:30	開会式	6:45	起床・洗面
11:00	Let's なかよし(仲間づくり)	7:15	準備・清掃
11:30	目標づくり	7:45	朝のつどい
12:00	昼食	8:00	朝食
13:00	目標づくり	9:00	ダンボール窯でもできる！？ オリジナルピザづくり
13:30	空気砲を作ろう！	13:00	振り返り③
14:30	食材ゲットオリエンテーリング	14:00	閉会式
16:25	振り返り①		
17:15	夕べのつどい		
17:30	夕食		
18:30	カラフルたき火		
20:00	入浴		
21:00	就寝準備・振り返り②		
21:30	就寝		

(2) 活動の状況



【開会式】



【Let's なかよし(仲間づくり)】



【目標づくり】



【空気砲を作ろう！】



【食材ゲットオリエンテーリング①】



【食材ゲットオリエンテーリング②】



【カラフルたき火①】



【カラフルたき火②】



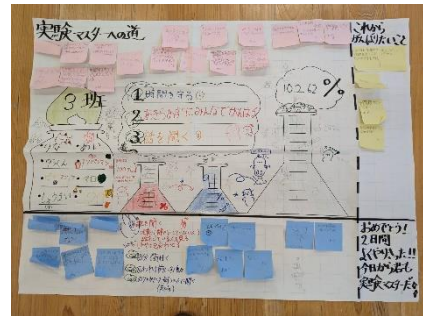
【オリジナルピザづくり①】



【オリジナルピザづくり②】



【オリジナルピザづくり③】



【振り返り】



【閉会式】



【集合写真】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：93% やや満足：7%

(2) 参加者の声

① 児童

- ア. ただのピザづくりではなく、「科学で」というのが楽しかった。
- イ. 今回で学んだことを家や学校でも活かしていきたい。
- ウ. ボランティアの説明が分かりやすく、次の行動がしやすかった。

② 法人ボランティア

- ア. 子どもたちがとてもいきいきと活動していて、「おもしろい！」や「科学の力って不思議やな～」という声があがったことが嬉しく、達成感があった。
- イ. 自分から子供たちの良さや課題を見つけ、共有できてよかった。
- ウ. 何分から次の活動があるから何分に集合するかなど子供たちに考えさせることで、子供たち自身で見通しのある行動ができ、スムーズに活動できた。

(3) 成果

- ① ボラコーと連絡を細かくとったり、事業当日までに2回の事前研修を行ったりしたことで、法人ボランティアはしっかりと計画を練ることができ、事業当日はスムーズに実施することができた。また、ボラコーの助言や指導によって、法人ボランティアは自信をもって事業を運営することができた。
- ② 安全管理や配慮事項について法人ボランティアとボラコーで共有したことで、安全意識を高めることができ、参加者に安心・安全に活動できる事業を提供できた。
- ③ 異なる学年の法人ボランティアが参加し、経験してきたことを伝え合ったり、役割分担をバランスよくしたりしたことで、組織としての力量が高まった。また、今後のボランティア活動への意識の高まりが見られた。
- ④ 対象を小学校4・5・6年生にしたことで、学校行事で来たりこれまでの教育事業に参加したりした人が参加できる機会となった。

(4) 今後の課題

事前研修を2回行うことで準備を深めることができたが、来年度利用料金の値上げがあったり法人ボランティアへの時間的な負担が大きかったりするため、事前研修の持ち方について考慮する必要がある。

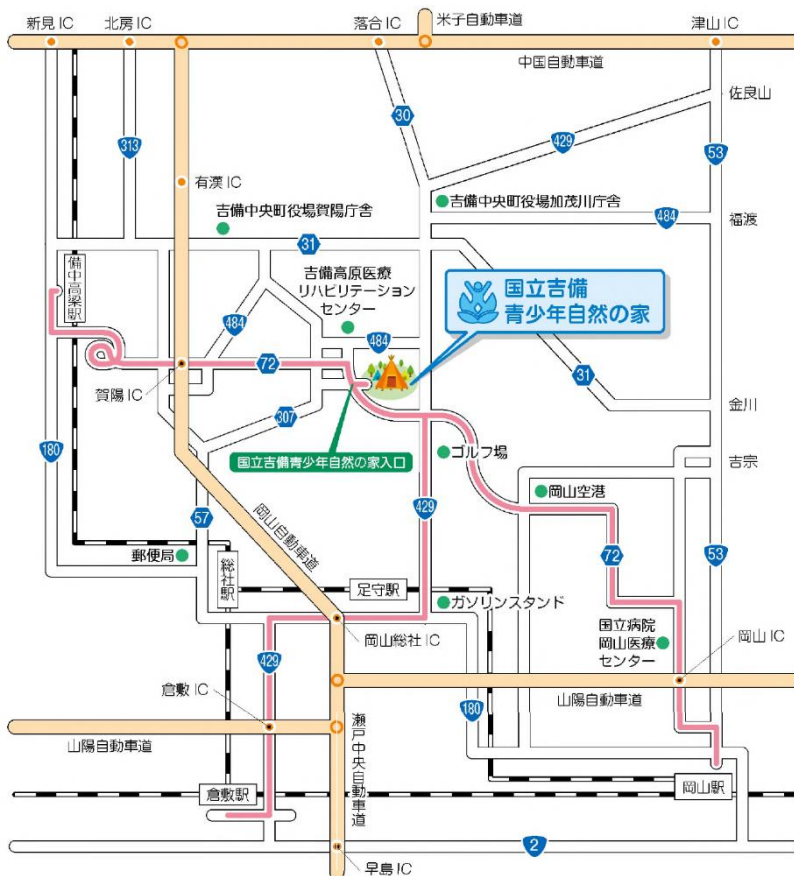
担当：企画指導専門職 藤本 昌克

公式 SNS で最新の情報を発信しています。

ぜひ登録をお願いします！



公式 Instagram 公式 YouTube 公式 LINE



- JR岡山駅から バス …………… 約70分 (33km)
- JR備中高梁駅から バス …………… 約50分 (21km)
- 岡山自動車道 賀陽ICから …… 約10分 (9km)
- 山陽自動車道 岡山ICから …… 約30分 (27km)

国立吉備青少年自然の家へは、「国少口 国立吉備青少年自然の家入口」交差点を右折してください。*写真は、岡山方面から見た図。

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 4393-82

電話 (0866) 56-7232 ファックス (0866) 56-7235

Eメール : kibi-senmon@niye.go.jp

吉備青少年 [検索](#)